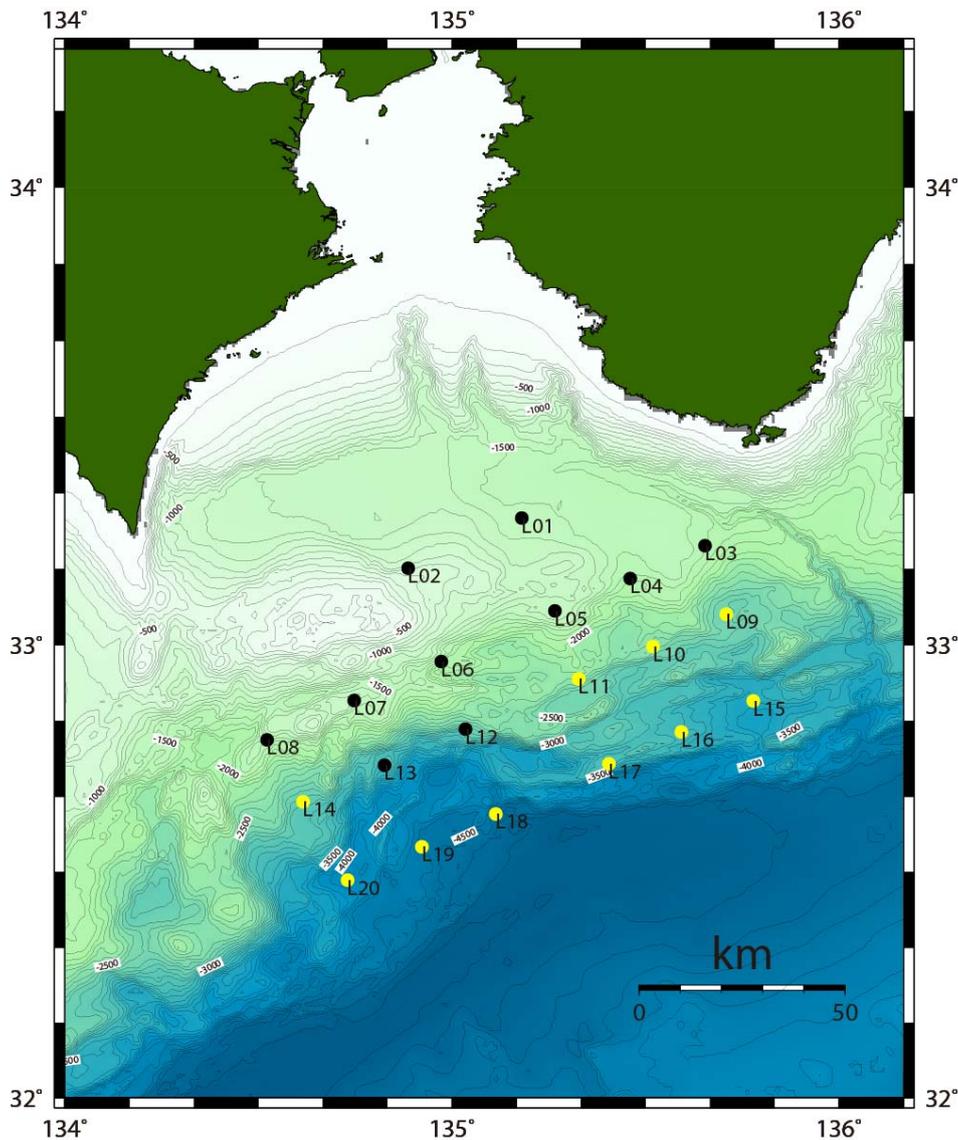


クルーズサマリー

1. 航海情報：

- (1) 航海番号・使用船舶：NT11-12・なつしま
- (2) 航海名称（実施要領書名）：
平成 23 年度「四国沖における地震探査および自然地震観測調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：下村典生・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：金田義行・海洋研究開発機構
- (5) 研究課題名：
受託研究「南海トラフ巨大地震連動性評価」
- (6) 航海期間・出港地～帰港地：
平成 23 年 7 月 15 日～7 月 23 日
海洋研究開発機構(横須賀)～海洋研究開発機構(横須賀)
- (7) 調査海域：四国沖～紀伊半島沖
- (8) 調査海域図：



● 本航海で回収した OBS。 ● 未回収 OBS。

2. 実施内容：

(1) 目的：

本航海は、文部科学省からの受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」の個別研究テーマ「南海トラフ域海域地震探査・地震観測」（平成20年度から受託）の一環として実施した。

南海トラフで繰り返し発生する巨大地震の中には、東海・東南海・南海地震が連動して発生する超巨大地震のケースがあることが指摘されている。このような超巨大地震について、どのような場合に連動あるいは非連動性の巨大地震となるのかを明らかにすることが必要である。さらに超巨大地震の中には、日向灘まで破壊域に含まれる可能性も示唆されており、南海トラフ巨大地震の連動性評価を考える上で、日向灘から房総半島沖までの地殻構造や地震活動が重要な情報であり、把握しておく必要がある。そのため、平成20年度には日向灘で、平成21年度には四国沖での地殻構造と地震活動を把握する目的での調査を実施した。本研究の目的は、四国沖から紀伊半島沖の南海地震破壊域における沈み込みに関する詳細な構造のイメージングおよび地震のアスペリティに関する構造を明らかにするためのデータの取得、西南日本の付加体先端部付近で発生している低周波地震や微動を含む地震活動を把握し、沈み込み帯の地殻構造、巨大地震の発生、地震活動の相互関係の解明に資することである。そのために深海調査船「かいれい」KR10-11航海によって短周期地震計(OBS)を四国沖から紀伊半島沖にかけて設置し、屈折法・反射法地震探査および自然地震観測を実施している。本調査ではKR10-11航海によって設置され、屈折法・反射法地震探査データ取得終了後、長期地震観測データを取得中のOBS20台中10台の回収を行った。未回収の残り10台は「かいれい」KR11-09航海によって回収予定である。

また、航海中は、地震探査調査と併せて海底地形観測を並行して実施した。

(2) 実施項目：

1) 短周期海底地震計の回収

「かいれい」KR10-11で2010年10月に設置された20台の長期型海底地震計の内、10台の回収作業を行い、10台を回収した。残りの10台は2011年9月に実施予定のKR11-09航海で回収する予定。

2) その他

シービームによる海底地形調査を実施した。